

2020 年 3 月期 第 3 四半期決算説明 電話会議 主な質疑応答（要旨）

Q 1. IFRS 第 16 号「リース」影響を除く 3 Q (10~12 月) 営業利益は▲10 億円減益ですが、その理由は何でしょうか。(FY18-3Q:92 億円→FY19- 3 Q:82 億)

A 1. 日新運輸・日立トラベルビューロー(現 HTB-BCD トラベル)の非連化とパレネット連結化をネットした影響が▲3 億円、フォワーディングのリスクを織り込んだことの影響▲3 億円、為替影響で▲1 億円のほか、消費増税駆け込み需要の反動減などによるもので、概ね想定通りです。

Q 2. 計画通りということでしょうか。

A 2. はい。IFRS 第 16 号「リース」影響を除く 3 Q 営業利益の当初計画値は 84 億円であり、フォワーディングのリスクを織り込んだことの影響▲3 億円はありましたが、概ね想定通りで推移しました。なお、3Q 累計では、計画値 230 億円に対し実績値は 234 億円(+4 億円)であり、若干上振れております。

Q 3. オーガニック国内の売上収益は上期が対前年+4%でしたが、3 Q (10~12 月)では+1%に減少している理由を教えてください。(何か環境変化によるものなのでしょうか。)

A 3. 立上案件等に大きな変化があった訳ではなく、消費増税駆け込み需要の反動減等によるものです。

Q 4. 3 Q 累計の営業利益が対計画で+4 億上振れている中、何故通期見通しを修正していないのでしょうか。

A 4. 貿易摩擦・顧客環境変化等により、フォワーディング(中国・アジア)や自動車関連の取り扱い減少が続いているほか、各種リスク(新型肺炎の影響)など先行きが不透明なため、修正しておりません。

Q 5. 業態別業績ですが、フォワーディング事業の売上収益・営業利益が前年比で大きく落ち込んでいる理由を教えてください。

A 5. 日新運輸の非連結化影響(▲売上収益 147 億円、営業利益▲5.3 億円)のほか、中国・アジア地域でのフォワーディング事業の収益悪化等によるものです。

Q 6. S Gホールディングとの協創の進捗は如何でしょうか。

A 6. 数値は開示資料の通りとなりますが、協創効果は着実に積み上がっています。

Q 7. 消費増税の影響で極端に取り扱いが減少している顧客はいるのでしょうか。

A 7. そここまで大きく減少しているわけではございませんが、家電や消費財関連のお客様の取り扱いは減っています。

以 上